

1 (協議事項) 総合交通戦略の策定(策定の進め方について)

No	意見等要旨	意見等に対する説明要旨
1	【高瀬会長】資料P7、15 ・調査が、現状把握を想定した内容である。計画策定には重要だが、PT調査では、施策を進めるための付帯調査が可能 ・現段階で、目標達成に向けた施策をイメージして設問を作らないといけない。 ・市と市民の考えが合致するように、意見を反映できる設問の設定が必要 ・大目標が自動車分担率の低減、中心市街地への自家用車流入の抑制でいいのか疑問	【事務局】 ・大目標の自動車分担率の低減、中心市街地への自家用車流入の抑制は、現計画にも入っていて、引き続き、取り組みが必要な課題 ・最終目標として決定したものではなく、今後、協議いただきたい。 ・調査、分析、計画策定の内容は、仕様を組んで技術提案を求めることとなるが、必要な施策を踏まえた調査としたい。
2	【高瀬会長】 ・市は、時差出勤の取り組みを進めているが、これにより自動車分担率が変わるわけではなく、目標からは外れていると考える。 ・渋滞をすべて無くすということではなく、駅前や生活道路は解消を目指し、大きな移動の部分は、自動車を許容するなど、メリハリをつけて考えるべき。	【事務局】 ・時差出勤の取り組みは、自動車分担率の低減に直接つながらないが、渋滞対策として、道路整備などのハードによる対策が難しいため、ソフト対策を図るもの ・引き続き、モビリティマネジメントに取り組みたい。
3	【大川委員】資料P7、15 ・現計画を評価検証する中で、目標との乖離を分析し、修正案を検討したうえで新たな計画を策定する必要がある。 ・交通のデータだけでなく、都市計画マスタープランにおける位置付けと整合を図ることが必要	【事務局】 ・計画策定に当たり、現計画の評価検証が必要ということはお意見のとおり。 ・交通は都市計画全体の一部であり、切り離せないことから、担当部署と連携し、上位計画と整合を図って進めたい。
4	【益山委員】 ・総合計画や都市計画マスタープランに加え、昨今多い災害などの非常時を念頭に置いた移動計画が必要であると考ええる。 ・地震、台風など予測ができない事態となったときに、こういったルートを使うのか、具体的に計画に盛り込んでもよい。	【事務局】 ・災害時に対応した都市づくりを目指す防災都市づくり計画があり、整合した内容で進めたい。

No	意見等要旨	意見等に対する説明要旨
5	【益山委員】 ・インバウンドが増えている中、移動に関する一元的な情報発信が求められる。 ・さらに、観光客でレンタカーを借りている方も増えていると感じる。 ・交通事故対策のためにも、スムーズな情報発信をしてほしい。	【事務局】 ・路線バスのキャッシュレス決済で、クレジットカードの利用ができる。 ・この秋から、更に使いやすくなる予定であり、改めてPRしたいと考えている。 ・観光部局と連携して進めたい。
6	【高瀬会長】 ・せっかく新たな計画をつくるので、可能な範囲で、交通だけでなく、都市計画、防災計画、観光といった関係する要素を含めて検討いただきたい。	
7	【山岸委員】 ・昨年度に松本地域公共交通計画を改定、利便増進計画を策定しているが、今回の総合交通戦略策定に合わせた見直しの予定はあるか。	【事務局】 ・松本地域公共交通計画は、令和10年度に見直し予定 ・自転車活用推進計画は、総合交通戦略と同様の年度であり、同時に策定を進めたい。
8	【大岩委員】 資料P7 ・PT調査はどの時期、曜日に行うのか。平日と休日では状況が異なる。	【事務局】 ・PT調査は秋に行う。 ・交通計画は、平日の動きを基準とすることが通常だが、休日のデータも取りたいと考えている。
9	【高瀬会長】 資料P7 ・観光客の動きは、どのように調査するのか。	【事務局】 ・R6年度に実施している観光動向調査で目的地、一次、二次交通を調査しており、データを活用する予定
10	【益山委員】 資料P7 ・施設、企業アンケートとあるが、施設には教育機関も含まれるか。	【事務局】 ・施設の選定はこれからとなる。 ・松本市内外の移動が把握できるように、全体のバランスを含めて選定したい。
11	【伊藤課長】 ・中心市街地への流入対策について、物流の交通をどう捌くのか検討する必要がある。 ・松本市の現状を見ると、難しい課題であると感じる。 ・今後、道路管理者の立場から各関係機関と連携しながら考えたい。	【事務局】 ・中心市街地で事業を行う車は流入せざるを得ない。 ・計画策定の中で検討したい。 【高瀬会長】 ・搬入の時間帯をずらすなどの対応も考えられる。

No	意見等要旨	意見等に対する説明要旨
12	【大蔵委員】 ・総合交通戦略が関係する範囲は、多岐に渡ると考えられるが、現在、課題として感じている事柄は何か。	【事務局】 ・自動車分担率の低減、中心市街地への流入抑制は、有効な策が無いのが現状 ・ドラスティックな施策は、市民生活に影響が大きいため難しい。 ・渋滞対策については、ハード整備による対策は難しく、モビリティマネジメントや規制が中心となる。
13	【高瀬会長】 資料 P 7 ・公共交通の分担率は、下がっているか。	【事務局】 ・公共交通の利用は、コロナ前に完全に回っていないが、JR線は概ね戻り、上高地線も好調と伺っている。
14	【高瀬会長】 ・自動車分担率が変わらない要因を考える必要がある。 ・5年ほど前に、全国的に自転車の分担率が下がった要因は、短距離のトリップに自動車を使うことであった。 ・単に自動車分担率を下げる、公共交通の利用促進では状況は変わらない。 ・これまでの分析をきちんとやって、新たな計画に生かすことが必要	
15	【大川委員】 ・市が策定する計画であり、施設管理者としての立場だと思うが、交通管理者である警察の意見を聴取する機会は設けるのか。	【事務局】 ・本委員会に参画いただいているため、計画についてはこの場でご意見を伺う。 ・規制など、個別の案件の話が出れば、個別にご相談する機会を設ける。
16	【椎名委員】 ・警察としては、交通死亡事故抑止に重点を置いている。 ・長野県下では、交通死亡事故が多発しており、高齢者の事故が大半を占める。 ・高齢者の事故を減らすためには、免許証の自主返納が有効だが、本人の意思では難しい。 ・自主返納しやすい公共交通の整備をお願いしたい。車から路線バスに転換させる施策が必要である。	【高瀬会長】 ・自主返納の率が高い自治体の交通体系を分析することが必要 【事務局】 ・自主返納については市でも研究していて、全国的には、返納者に商品券を渡すなどの事例があるが、決定打にならない。 ・警察と連携し、公共交通の利用や自転車に安全に乗れるなどの自主返納しやすい環境を整えることを進めたい。

No	意見等要旨	意見等に対する説明要旨
17	【高瀬会長】 ・佐久と伊那でA I オンデマンド交通をやっており、利用者の1／4が自主返納している。 ・ドア to ドアのオンデマンドは難しいと思うが、場所ごとの仕組みを考えていただければよい。	
18	【益山委員】 ・プロポーザルの仕様として、国内外の成功事例を調査する内容を入れたらどうか。 ・過去に視察に行った経過もあると思うので、活用してはどうか。	【事務局】 ・うまくいった事例を参考としたい。 ・H23年にフランスとドイツを視察したが、ヨーロッパでは行政が公共交通を運営 ・日本では状況が異なるが、松本市は公設民営の形で、一步近づいた。 ・国が公共交通を社会インフラとして位置付け、国県市が連携し、交通事業者に安定的な運行をしていただく形が目標と考える。
19	【二條委員】 ・上高地線の利用率が好調という話があったが、内訳としては、観光客が多数を占める。 ・地元の方の利用者は、コロナ前に戻っていないのが現状 ・バスの運転手が減っている中で、単純にバスを増やせばいいというわけではなく、自動運転など、新技術の活用も含めて検討いただきたい。	【事務局】 ・本委員会は関係する各事業者に来ていただいているので、ご意見をいただきながら進めたい。
20	【古田所長】 ・現在、グリーンシーズンでタクシー利用は好調 ・上高地の利用が伸びている一方、市街地は乗務員不足などもあり、現状は厳しい。 ・デマンドバスを一部請け負っているが、タクシーの役割、領域がある。 ・すべてがデマンドとなると、タクシーの存在意義がなくなり、夜の運行が無いなど、問題が発生する。 ・タクシーとデマンドバスをうまく共存できるような形にしたい。	【事務局】 ・タクシー業界には、市からもお願いをして、交通を担っていただいている。 ・現体制の維持が難しい状況もあるかと思うが、体制が変わっていくこともあるので、計画に生かしていきたい。

No	意見等要旨	意見等に対する説明要旨
21	【小川さん】 ・バス、タクシー、鉄道がそれぞれの役割を担っていて、有効的に活用していくことが大切 ・何をターゲットにして政策を進めていくかが重要	

- 2 （報告事項）総合交通戦略のR5年度指標の結果について
意見なし（資料の概要説明のみ）